

適正施設ガイドライン

【タナゴモドキ *Hypseleotris cyprinoides*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 温度（水温）

成魚・未成魚は、室温飼育（20℃（冬）～30℃（夏））、仔稚魚については、室温飼育（20℃～28℃）で飼育可能である。しかし、一日のうちに、温度変化が急激な場所、著しい高水温や低水温（20℃以下）になる場所は飼育に適さない。どうしても飼育しなければならない場合は、クーラーやヒーターを設置して温度変化を少なくする必要がある。

1-2 設置場所

上記の温度条件を満たす場所が望ましい。また、水槽の前を頻繁に人が行きかう場所などでは、魚が落ち着かないことがあるので、避けた方が良い。どうしても設置する場合は、隠れ家を多く設置することや、水槽に目隠しを施すなどの工夫が必要である。

1-3 照明（日照、人工照明、照明時間長）

照明は自然光、人工照明（蛍光灯、LED 灯）のどちらでも良い。直射日光があたる場合は、水温が急激に変化する恐れがあるので注意しなければならない。また、光が強ければ、水槽内に藻類が発生しやすくなるので、メンテナンスの手間も考えなければならない。

1-4 水槽容積

本種は魚体サイズが小さいこと、群れで暮らす習性から、比較的小型の水槽で終生飼育が可能である。しかしながら、小型水槽では水質が急変しやすいために、60cm 程度の水槽（60×30×36cm、容量 65ℓ）での飼育が望ましい。さらに仔稚魚の場合、30L（30×30×30cm、容量 27ℓ）の水槽で 100 個体ほどを飼育できるが、成長に伴い個体数を減らすか、容積の大きな水槽に移動する必要がある。未成魚や成魚は、60cm ほどの水槽で 20 個体程度を飼育することが望ましい。収容数が多いと個体群のサイズが小さくなり、少なすぎると人や振動などの刺激に対して、臆病な個体群になりやすい。

1-5 構造、設備

成魚・未成魚では、水槽の水底に細砂を敷き詰める（底面濾過材との兼用可）。隠れ家を設置し、水草などを植えて魚が落ち着けるレイアウトにすることが望ましいがスポンジフィルターを設置する場合には、そこが隠れ家になる。卵・仔稚魚の場合は、水槽内に何も入れなくてよい。濾過装置はスポンジフィルター等の簡易なものでもよく、水質の変化に合わせて、換水を行う必要がある。また、短期間に換水で環境を変化させてやると、繁殖行動につながることもある。（写真 1）



写真 1 成魚・未成魚の飼育水槽

1-6 飼育水（水質）

淡水魚の飼育水として実績のある天然水、または塩素を中和した水道水でよい。pH は、弱アルカリ～弱酸性でよい。